

発行所  
伊那市荒井  
3500-1-401  
上伊那教育会館内  
長野県教職員組合  
上伊那支部  
編集発行人  
田中 孝弘

# 上伊那支部 情報紙

2019年  
6月25日  
第8号  
職場掲示

支部ホームページ <http://www.kamiina.jp/sub-domain/ntuhp/wordpress>  
組合員用 パスワード：ntu2453

## 教師としてのあり方を考える

### ～基調講演会～



6月14日(金)に、長野県伊那文化会館小ホールにおいて、2019年度基調講演会が開催され、173名の参加がありました。今年度は、奈良女子大学教授であり教育システム研究開発センター長でもある西村拓生先生にお越しいただき、「教師の仕事を導くもの、支えるもの ～木村素衛の『表現愛』に即して～」と題してお話をいただきました。

この基調講演会を受けて、10月の教育課程研究協議会(研究会I)に向けた研究を各校で進めていただきたいと思います。多くの先生方にご参加いただき、ありがとうございました。基調講演会のまとめにつきましては後日配付いたします。

#### 【参加者の感想(抜粋)】

- 子どもたちは表現しながら、学んだことを自覚化することがあると私は考えていました。木村素衛(京都派)が考える表現は「ただちに形成することだ」という言葉から、自分が大切にしてきたことをもっと自信をもって進めてよいと思うことができました。同僚と授業について語り合う中に、本時教えていただいたことを出して、話題にしていきたいと思います。
- こうでなければ…、ああでなければ…、教師も多方向から「must」を求められ、要求(強要)されることが多い我々ですが、子どもと接する時に、その子のよさ(美しさ)を感じつつ、子を「アガペ」で見つめ、自身も「アガペ」で見つめ、「一打の鑿」を打つ日々を送りたいと思いました。
- 「今できない事をできるようにするのが学校」子どもたちの今の努力を肯定し、認める事がさらに自主的な取組を育む。それがアガペである。よりよい教師を求めていくエロス。失敗してもうまいかなくても認めてもらえる教師としての存在があるアガペ。哲学に身を置く方の発する一つ一つの言葉は優しく心に残りました。